

定数削減条例を可決

議員定数のあり方を検討するために設けられた議員定数等調査特別委員会の審議がまとまり、森田増範委員長が、現行の21人から2人減じ、19人とする条例案を提案。賛成多数で可決した。

議員定数の削減は、平成18年度の行財政改革審議会（森安元義会長）の答申においても、要望として求められており、先の3月定例会で議員全員による特別委員会を設置。以後、町の財政健全化に向けた取り組みに沿って、議論を重ねてきた。

賛成討論

（西山富三郎議員）

私を含め数名は現状維持の意見だった。

地方議会のあり方、議会の機能、意識改革こそ議論の基本である。2名減は、議会機能ぎりぎりの選択である。

反対討論

なし

議会費用の総額は…

1億1,300万円

議会にかかる費用は…

町予算の1.18%

議員2人削減で…

約800万円節減

（平成20年度予算）

議論の経過

特別委員会の審議は、4月以降、4回にわたって議論された。

町の財政状況、住民意識を勘案すれば2〜3人の削減が必要とする意見が複数あり、少数ながら5〜6人削減すべき意見も若干あるなか、「合併前45人の議員が、すでに半数以下になっており、定数見直しは時期尚早」、「住民の声を隔々まで聞きでない」等の理由で、

現状維持もしくは削減しても1人の意見も多く調整は難航。

「どうしても減らすなら1人」、「1人しか減らさないなら減らさない方がよい」と意見が対立する場面もあった。

第3回目の会議で、「町民千人に対し議員1人」、「目に見える形での改革」等の理由で2〜3人減の意見が半数を超え、最終的に、第4回目の会議で森田委員長から2人削減の提案があり、全会一致で承認した。

議案質疑

ふるさと納税

問（近藤議員）

ふるさと納税の受け皿として、「ふるさと応援寄付金」が歳入に200万円計上してある。

どのように集めるか。より高い目標を設定し、積極的に寄附をお願いしていくべきでは。（一般会計補正予算）

答（山口隆之町長）

チラシ等により、大山

にゆかりの方々、大山を応援して下さる方に呼びかけていく。

より効果的なPR、支援を拡げていく方法など、内部でさらに検討したい。

チャレンジプラン

問（秋田議員）

農業振興費のチャレンジプラン支援事業補助金が、1225万円増額されている。当初予算は900万円だったが、申し込みや採択の状況はどうか。（一般会計補正予算）

答（池本農林水産課長）

当初予算分で3件900万円の申し込みがあり、2件は支出が確定している。新たに4件（農業法人1、認定農業者3）の申し込みがあり、予算補正したい。事業の内容は、コンバイン、トラクターの購入、ビニールハウスの修繕、作業場の改築など。

中の原スキー場

問（西尾議員）

温暖化で年々、雪が減る。中の原スキー場と他との統合、合併についての考えは。（索道事業会計補正予算）

答（山口隆之町長）

大山のスキー場は大事な資源。持続的な経営が互いに行えるようにしていかねければならない。運営形態の一つにするなど、いろいろな考え方があろうと思う、議会とも協議しながら、各社と議論していきたい。

「ふるさと納税制度」でお預かりしたあなたからの寄付金で、

大山町の自然環境を守ります!!

次代を担う子どもたちの

育成に努めます!

町の福祉施策の充実をはかります!

ふるさと納税
ふるさと振興の一助に期待される「ふるさと納税」

自然環境の保全
福祉
教育

みなさまからの応援をお待ちしています。